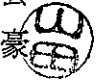


令和元年 8月13日

常滑市議会議長 様

会 派 名 日本維新の会
会派の代表者 山田 豪



会派等の研究研修について下記のとおり報告します。

記

- 1 期 日 令和元年7月 3日(水) 11:00~15:00
- 2 研 修 名 中学卒業後の学習支援(不登校・引きこもり・高校中退者支援)
- 3 場 所 さくら国際高等学校東京校
〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-43-8
- 4 参 加 者 山田 豪
- 5 研修の内容 ■子供を取り巻く環境の整備(不登校・引きこもり支援)
自治体の役割・範囲(中学校までのこども支援)は充実を図ることができるが、中卒後の支援が難しいことから、学校法人誘致等を含め、自治体と学校法人との連携による中卒後の支援のあり方についての研修。
 - ・常滑市での学習支援が可能か
 - ・カリキュラム
 - ・スクーリングについて※提案書を提出する予定
- 6 経費の報告 名古屋⇄東京 往復(JR) 19,450円
その他…自費

合計19,450円



常滑市議会 日本維新の会 視察報告

視察日	令和元年7月3日
会派名	日本維新の会
視察項目	子供を取り巻く環境の整備（不登校・引きこもり支援）
視察者	山田 豪

1 報告事項

日 時	令和元年7月3日 11:00~15:00	場 所	さくら国際高等学校東京校
-----	----------------------	-----	--------------

研修内容

- 引きこもり・ニートの支援の在り方（勉強会）講師：荒井裕司 氏
- 学習支援視察
- 学校法人と自治体との連携について
 - ・学校法人の分校
 - ・地方自治体との連携による「学習支援」
 - ・市の施設（公民館、生涯学習センター）等の使用による事例
 - ・現地教師OBによる子供の学習支援
- 地方自治体では16歳～18歳までの貧困対策がほとんど行われていない。
主に必要な支援は、学習支援（高校卒業資格取得支援）と就職支援。

<なぜ、16歳～18歳の施策が手薄なのか>

- ・地方自治体の管轄外（中学校まで）。
- ・情報が手に入りにくい。
- ・NPO等支援団体が少ない。
- ・儲からない分野の為、民間企業の参入がない。
- ・手が掛かる。等

<なぜ、16歳～18歳（高校中退者）の支援が必要なのか>

- ・支援がない場合、若年者フリーター増加
- ・支援がない場合、ニートの増加
- ・支援がない場合、社会保障を支える側が減る（納税者の減少）。

〔参考〕生涯納税額（市県民税） 正規雇用労働者→約1,000万円
非正規雇用労働者→約 40万円

所感及び市への反映

<常滑市での解決策>

市民センター等の活用が可能であれば、引きこもりや不登校、高校中退者等への学習支援ができる。学校法人等の協力を得ることができれば、市内の引きこもりや不登校、高校中退者等への「高校卒業資格取得」の為の支援も可能になる。

子供たちの中に、高校へ行って何らかの理由によって退学をしてしまった例は少なくない。大人社会へ飛び立つ前の大切な時期に、孤立をしてしまう状態になってしまう。誰もサポートしてくれない。子供たちの「悲鳴」が届かない地域であってはならない。子ども貧困問題で一番大切な支援は、親の経済格差の問題から、その影響を受けた子供たちが貧困の道に進んでしまう「貧困の連鎖」であると考え、連鎖を食い止める支援をつくっていきたいと考えている。